

コミュニケーション能力の育成 ～発信力を育む授業展開とは～

英語科 石川 剛 小野木 ゆみ 柴田 伊織

1. 主題設定の理由

グローバル化が急速に進む近年、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要である。特に2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、グローバル化に対応した新たな英語教育の改革が不可欠とされており、英語教育を取り巻く環境の変化には著しいものがある。文部科学省は新たな英語教育が本格展開できるように「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」（平成26年9月）を発表し、基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が重要な課題として挙げている。

上記の点を踏まえ、本校英語科としては現行の学習指導要領の目標「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことはもちろん、「身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う」といった新たな目標に合わせ、本年度の主題を設定した。我々が考える「コミュニケーション能力」とは単に自分の考えを伝える力ではなく、相手の意向を理解し、自らの考えに理由や根拠を付け加え、適切に表現したりして通じ合うことができる能力である。このようなコミュニケーション能力を育成するためにはそれぞれの生徒が自ら考え、意見を持ち、それを相手に伝え合うという機会を意識的に設定し、生徒の発信力を育成できるような授業展開を行う必要がある。小中高を通じて系統的で一貫した教育を心がけている。

2. 英語科における「つながり、かさなり、ひろがる授業」

つながり、かさなり、ひろがる授業とは系統性と階層性を持った質的量的に優れた授業のことである。本研究テーマのもと、附属池田地区の教育課程において行われる授業は、各学年また各教科・領域におけるつながり、かさなりを重視したものでなくてはならない。

中学校英語科としては、小学校での音声中心の外国語活動で育まれた素地の上に、「話す」「聞く」「書く」「読む」といった4つの技能をバランスよく育成し、高等学校においてさらに総合的な英語力が高められるよう橋渡しする必要がある。外国語を教える上で最も大切なことは、互いに意思疎通を図ろうとする姿勢や間違いを恐れない態度、また言語や文化の違いや共通性への興味などといった小学校で培ったコミュニケーション能力の素地を育成することである。このような能力は言語を学ぶ上での根幹となるものであり、また短期間で習得できるものではない。日々の英語の授業はもちろん、授業外の活動や他教科の授業とも密接に関わるものである。言語を扱う英語科だからこそ我々が中心となってコミュニケーションを図ることができる能力を育成し、発信できる生徒を育てる必要がある。中学校英語科では全学年においてペア・グループワークを多く取り入れ、互いを受け入れ、安心して自分の意見を発信できる雰囲気作りに努め、小さな成功体験を積み重ねることで自信をつけ、発信することを恐れない生徒を育成しようと試みている。

授業で取り扱う題材に関しては、身近な話題から現代の諸問題、日本の文化や歴史など小中高の10年間で幅広く扱い、グローバル人材としての態度を身につける基礎固めを行っている。そして授業の中で学ぶことを単に知識として獲得するだけでなく、実際に考え、意見や感想を持つことを大切にしてい

る。児童・生徒はこのような過程を経て自分の意見を発信する機会を得ることになり、それが相手に伝わるという経験をする中で、英語を使って発信できるようになっていく。

またコミュニケーションを支える技能に関しては、小学校における音声中心の授業で育んだ「話す」「聞く」という技能だけでなく、「書く」「読む」という新たな技能が加わり、4技能を総合的に育成しなければならない。そのため、生徒が英語に触れる機会を充実させるために普段から授業は英語で行うことはもちろん、内容に踏み込んだ言語活動を重視している。また文法訳読に偏ることなく、情報を聞いたり読んだりして内容を理解した後、自分の言葉で工夫して表現力豊かに伝えたり、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション活動を多く設定している。例えば1年生ではオリジナルスキット作成や one minute chat、2年生では海外の学生との手紙のやりとり、3年生ではプレゼンテーションやディベートなどのような言語活動に取り組んでいる。英語を用いて何ができるようになるかという観点から目標を具体化し、その目標を達成するためにスモールステップを踏んだ指導を心がけている。高等学校においては発表、討論、交渉等のより高度な言語活動を行うことが求められており、中学校3年間で生徒たちが育んだ技能が不可欠なことはいうまでもない。

英語科における役割とは、単に英語力を高めることだけではなく、言語を学習する科目として、相手を認める・受け入れると同時に発信・表現することの喜びを伝えることである。自尊感情を高め、発信することを恐れない生徒を育てるには、中学校だけでなく小中高を通して発表・意見交換の機会を多く持ち、自らを発信することを恐れない児童・生徒を系統的に育て上げる必要がある。そしてたくさんの成功体験を経験させ、英語で発信することを恐れない生徒を育てたいと考えている。このことから英語科においての「つながり、かさなり、ひろがる」とは学習初期の段階からたくさんの英語のシャワーを浴びせ、使う機会を十分与え、英語学習やコミュニケーションへの意欲を高め、自己発信ができる生徒を育てることだと考える。

以下に本年の実践事例を示す。

中学校3年間での4技能における最終目標

	Listening	Speaking	Reading	Writing
Grade 3	200語程度の日本や外国の文化、他者の意見を正しく聞き取り理解することができる。	他者の意見を聞き、自分の意見を相手に伝え、議論ができる。	500語程度の長い英文を読み、内容を正しく理解することができる。	外国や日本文化の紹介文を書いたり、他者の意見や長文を読んで自分の考えをまとめて書くことができる。
Grade 2	100語程度の日本や外国の文化、他者の意見を正しく聞き取り理解することができる。	自分の経験や未来、夢について、相手に伝えることができる。	300語程度の長い英文を読み、内容を正しく理解することができる。	自分の経験や未来、夢について、まとめて書くことができる。
Grade 1	人物紹介や日常生活で話されている会話を正しく聞き取り理解することができる。	自分のことや日常で用いられる会話を英語で話すことができる。	100語程度の短い英文を読み、内容を正しく理解することができる。	自分のことや身のまわりのことについて英語で文章を書くことができる。

参考文献

中学校学習指導要領 外国語編

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画

4. 本年度の実践報告

【1年】

Introduce my friend 3単現のsを用いて

授業者 柴田 伊織

(1) 単元設定の理由

本単元は、自分以外の他人を紹介するという題材である。ブラウン先生の家族紹介を通して、自分自身やあなたではない他の人や物、いわゆる三人称の紹介方法を学習する。それを通して三人称単数現在形における動詞の形の変化（以下三単現のs）を用いた文を学習できる題材となっている。

本単元では三単現のsを定着させるとともに、生徒の身近な人物を紹介する活動を最終目標に設定した。紹介する活動に至るまでには、まず人物を紹介するときの文の構成などを学習する必要がある。教科書のブラウン先生の家族紹介の本文を用いてそれらを学習させたい。また、人物紹介のためには十分な情報が必要であるため、人物紹介の前段階としてインタビュー活動を設定した。口頭だけではなくインタビュー内容のメモを取らせ、その内容を書かせて紹介したい人物の情報をまとめさせる。さらに生徒同士で作成した紹介文の読み合いを行う。インタビュー活動と人物紹介と確認作業を通して、話す、聞く、書く、読むという4技能を総合的に向上させることが可能であると考えた。

(2) 単元目標

- まちがいを恐れず積極的に話す
- 三単現のsを用いて、第三者の紹介をする
- 教科書本文を読んで、第三者を紹介する文を読み取る。
- 三単現のsを用いた文の構造を理解する。

(3) 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①間違ふことを恐れず積極的に話そうとしている	①正しい強制や、イントネーション、区切などを用いて適切に音読することができる ②自分や第三者の紹介やインタビューをすることができる。	①本文のあらすじや内容を正しく読み取ることができる。	①三単現のsを用いた文の構造を理解している。

(4) 単元の指導計画 (全 8 時間)

第一次 三単現の s を用いた文の文法項目を学習させる (2 時間)

第二次 教科書本文を読み、理解させる (3 時間)

第三次 インタビュー活動を通して、身近な人物の紹介をする (3 時間)

(5) 単元の実際

まず、授業者が有名人や生徒たちの学年の先生の紹介などを行い、三単現の s の導入を行った。これまで学習してきた 1 人称や 2 人称の文との比較を行い、動詞の形が変化していることの気づきを与えた。その後、本文を使用して人物紹介の構成や決まった言い方 (This is (名前). He is (職業や自分との関係).) を学び、英語を使用した人物紹介に慣れ親しんだ。また、画面に映し出された人物をパートナーやグループに即興で紹介をする活動などを行った。インタビュー活動では、事前に質問文を考え、実際の活動中はメモを取る指導した。人物紹介は似顔絵もしくは写真を添えて英文を作成させた。また本文に見られるように、単なる人物紹介だけではなく、その人物に対する自分の思いなどを表す英文を作成するように指導した。またできた原稿を生徒同士に読み合わせを行い、書いた英文の内容や文法確認を行った。最後に紹介する人物以外の生徒同士でグループになり、自分の身近な人物の紹介を行った。

(6) 成果と課題

コミュニケーション力を育成する際に、失敗をおそれず積極的に話そうとすることは不可欠である。即興人物紹介活動や、作成した英文の生徒相互の確認により、積極的に英語を使用することに対する姿勢や態度を見ることができた。生徒たちに要求した紹介文は「6 語以上の文を 3 文以上含む、10 以上の英文の作成」であり、大変な作業であったが、この決められた目標に対して必要な分量のインタビュー活動、人物紹介の英文づくりができ、表現の能力が高まったに違いない。身近な人物の紹介のため、生徒たちは主体的に取り組むことができた。

中学校の英語教育に置いて、小学校における外国語活動を通して育まれたコミュニケーション能力の素地の上に、四技能をバランス良く育成し、高等学校に置いてさらに総合的な英語力が高められるよう橋渡しをする必要がある。今後もこの小学校と高等学校とのつながりを意識し、「発信力」を高められるような指導をおこない、さらなる指導法を追及していきたい。

【2年】

問い合わせの手紙を書こう オーセンティックな場面で英語を使う

授業者 小野木 ゆみ

(1) 単元設定の理由

本単元では、オーストラリアを題材とし、特に先住民族の伝統、文化に焦点を当て、観光・旅行への興味と現地の文化を尊重し、配慮することを扱っている。ここでは、この単元の最後の書く活動「問い合わせの手紙を書こう」のみを扱う。この活動では、海外の名所や観光地についての情報を取り寄せるための手紙を書くことになっている。そこで、架空の手紙を書くのではなく、実際にオーストラリアの生徒と手紙のやり取りをすることにした。日本のようなEFL(English as a foreign language)環境下では、教室外で英語を実際に使ってみる場面がほとんどないと言っても過言ではない。ともすれば、生徒にとって英語は一つの教科であり、試験のための科目でしかない。よって、英語の授業では、できる限り実際に英語を使ってコミュニケーションができる場面を提供し、生徒は英語を使う意義と楽しさを体験すべきである。その体験の積み重ねが生徒の英語学習の動機付けになると考えた。

(2) 単元目標

- 間違えることを恐れず積極的に海外の名所や観光地について問い合わせる正式な手紙を書く。
- 受け取った手紙を正確に読み取る。
- SV00 と SVC の文を手紙文の中で実際に書くことができる。

(3) 単元の評価基準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違えることを恐れず、積極的に自分の考えを書こうとする。	① 正式な手紙を書くことができる。	① 語句や表現、文法事項などの知識を活用して、手紙の内容を正しく読み取ることができる。	① SV00 の文の構造を理解している。 ② SVC の文の構造を理解している。

(4) 単元の指導計画 (全3時間)

第一時 教科書本文を読み理解する。

タスマニアの観光名所の映像を見る。

手紙の形式を学習し、手紙の下書きを書く。

第二時 手紙を清書する。

第三時 オーストラリアからの手紙を読み取り、班で紹介する。

(5) 単元の実際

まず、教科書本文の問い合わせの手紙文を読み、理解させた。生徒に実際にタスマニア島の学校に手紙を送ること、ペアで協力して手紙を書くことを告げた。偶然にも Lonely Planet Travel Book がタスマニア島を世界の観光地ベスト7に選んだばかりで、タスマニア島観光地ベスト10の映像を見せることができた。生徒はその中から最も興味がある観光地を選び、そこの何が知りたいのか、どんなことを相手にお願いしたいのかをワークシートに書き込み、それを元に手紙の下書きを書いた。教師は生徒が書いた英文を添削し、次の授業で生徒は手紙の清書をした。手紙には1年生のときに学習した自己紹介文も含めることにした。

約一ヶ月後に返事が来て、3学期の最初の授業で手紙の読み取りをした。ワークシートに手紙の情報を整理して書き取り、4人班で情報をシェアした。その後班の代表がクラスで手紙の内容を発表した。

生徒の手紙

Ikeda Junior High School Attached to Osaka Kyoiku University.

November 6, 2014

Dear Mowbray Heights Primary Student,
 We are junior high school students of Ikeda Junior High School Attached to Osaka Kyoiku University.
 Let us introduce ourselves first.
 My name is Rin Oi. I'm a 13 year old boy.
 I like soccer very much.
 My name is Anna Konishi. I'm a 14 year old girl.
 I join the home-economics club. I make clothes and make candies there.
 We saw the Lonely Planet Travel book and we are interested in Tasmania. It looks nice. We would like to visit Tasmania Zoo.
 Would you tell us about it in detail?
 First, what animals there are indigenous to Australia?
 Second, what interesting habits do they have?
 If you know any good web pages, please show us those web sites. If possible, could you send us two brochures of Tasmania Zoo? We have another request: Could you send us two pictures of Tasmania devil?
 We are really looking forward to hearing from you soon.
 Thank you in advance.
 Best wishes,

読み取りワークシート

Fly Higher No.3-1

Let's Read Letters from Australia!

Jan.9, 2015

Procedure: 1. Read the letter as a pair.
 2. Write down the information you have got.
 3. Share the information with another pair.

Information about your pen pal(s)

Name	Terry
Age & Grade	12 th
Boy or Girl	Boy
Others	Tasmania zoo * some are being quarantined on Maria Island to help protect the quokkas. → 80種類以上 → 隔離施設(島)で保護して。 → the Devil Facial Tumor (They are endangered as they have an infection which is passing between them.) Tassie Devil

Information about the things you asked

Topics Tasmania Zoo

There are also, wallabies, snakes, lizards, echidnas, crocodiles and birds.
 75°C 蛇 10m 117°C 70°C以上 (70)

3. A sample story
 Our pen pal's name is Terry. She / He is 12 years old and in the ___ grade.
 She / He has ___ brothers and sisters. She / He studies math / P.E. / music at school.
 She / He told us about _____

HW: Please write the information about the letter you have received in your notebook.

(5) 成果と課題

実際に手紙を受け取った生徒達は本当に嬉しそうに手紙を読んでいた。知らない単語もあり、手書きの英語が読みづらかったりしたが、積極的に辞書で調べて、何とか内容を理解しようとしていた。ちょうど相手の学校の生徒達も架空のカナダ人にタスマニアを紹介するという活動をしていたので、双方が実際の手紙をやり取りすることで成果が上がったと思う。ほとんどの生徒はまたこのような活動がしたいと言っており、中にはこのまま文通を続けている生徒もいる。

今年度は附属池田地区の研究テーマ「つながり・かさなり・ひろがる授業」に取り組んで2年目となる。授業の中の英語が外の世界にひろがって行く体験をどんどん生徒に経験させられる授業を目指したい。

【3年】

英語でディベート ～発信力に焦点を当てて～

授業者 石川 剛

(1) 単元設定の理由

これからの国際社会に生きる日本人として、自分の意見を相手に伝えることや、相手の意見を適切に理解することは、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていくために大変重要なことである。そのような英語でのコミュニケーション能力を育成するためには、なるべく自然な会話の中で、自分の考えなどを伝え合う活動を行わせることが有効であると考え。そこで本単元ではディベート活動を設定し、生きたコミュニケーションを体験させ、生徒の発信力を育成したい。

ディベート活動は相手の発言の意図を理解し、意見を論理的に組み立てるための高い英語運用能力が求められ、中学生にとっては負担の大きい活動かもしれない。しかし、自分たちに関わる身近なトピックを設定することで、意見や理由を挙げることはさほど困難ではないと考える。また本学級の生徒は、ペアでのコミュニケーション活動を繰り返し行っており、身近な話題に関して自分の意見を述べたり、相手に質問したりする練習を行ってきた。本単元ではこれまで学習してきたことを総動員し、相手の意見を聞き、それに対し自分の意見を論理的に述べることをねらいとする。本単元を学習することにより、英語でのコミュニケーション能力を育成することができると思う。

(2) 単元の目標

- 積極的にディベートに参加する。
- 状況に応じた英語で自分の意見や考えを表現する。
- グループ内での話し合いを聞いて、誰がどんな意見なのかを適切に理解する。
- 意見を論理的に述べる方法についての知識を身に付ける。

(3) 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
・自分の意見を身振り手振り、知っている語句や表現を利用して積極的に伝えようとしている。 ・クラスメイトの意見に相づちを打ったり、メモを取ったりするなどし、関心を持って聞こうとしている。	・場面や状況にふさわしい表現を用いて、自分の意見や考えを述べるができる。	・ディベートのトピックに関する英文を聞いたり、読んだりし、内容を正しく理解することができる。 ・語句や表現、文法事項などの知識を活用して論点を正しく聞き取ることができる。	・ディベートにおける定型的な表現を身につけている。 ・一般的なディベートにおける手法を身につけている。

(4) 単元の指導計画 (全7時間)

時数	ねらい	主な学習活動	評価規準				評価方法
			コ	表	理	言	
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの流れ、方法を理解する。 ・賛成か反対かを述べる表現をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Teacher ・ chat time ・ debate のモデルを見る。 ・ ディベート表現集 ・ 日本での英語教育について賛成か反対か、自分の意見とその理由を述べる。 	①	①			活動の観察 ワークシート チェック
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な理由の述べ方を理解する。 ・ 聞き取ったことや聞きとれなかったことを確認するための質問をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Teacher ・ chat time ・ ディベート表現集 ・ 事実と意見の違いを知る。 ・ 相手の意見を聞いて質問の仕方を練習する。 			①	①	活動の観察 ワークシート チェック
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反論の仕方を理解する。 ・ 学校清掃について自分の意見を述べ、相手に反論する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Teacher ・ Reading Marathon ・ ディベート表現集 ・ 紙上ディベート ・ トピックに関する意見を読み、自分の意見の参考にする。 		①	②		活動の観察 ワークシート チェック
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 反論の仕方を理解する。 ・ 学校での携帯使用に関して、自分の意見を述べ、相手の意見に反論する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Teacher ・ Reading Marathon ・ Vocabulary quiz ・ 紙上ディベート ・ ピンポンディベート (相手の言うことをメモし、即興で反論する練習) ・ トピックに関する意見を読み、自分の意見の参考にする。 	②	①			活動の観察 ワークシート チェック
第5時 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生に制服が必要かどうか意見、質問、反論を考え、マイクロディベートを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Teacher ・ Reading Marathon ・ ディベート表現集 ・ Micro-debate 	②	①			活動の観察 ワークシート チェック
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT とのディベート対決へ向けての準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Teacher ・ ディベート表現集 ・ ディベート大会準備 			②	①	活動の観察 ワークシート チェック
第7時	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT とディベート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Teacher ・ グループディベート 	① ②	①	① ②	①	活動の観察

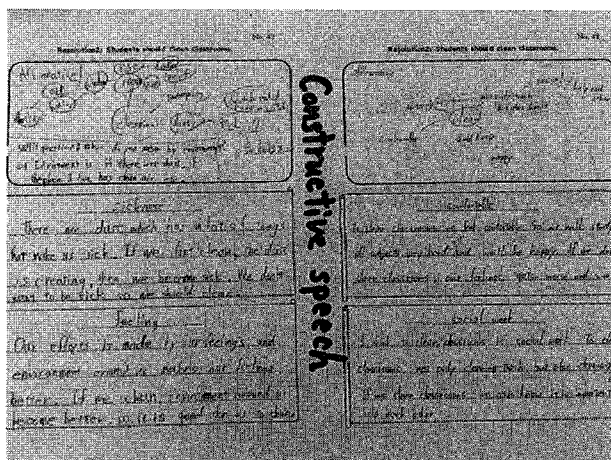
(5) 本時

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点
あいさつ	Greeting Song		
帯学習	The Teacher 本日の先生役の生徒2人がクラス全体に質問する。 Reading Marathon 100語程度の英文を読み、内容確認を行う。その後キーワードを挙げ、全体で確認し、その語を使って口頭で要約する。	ループリックに従って評価する。 日本語を使わず、キーワードを用いて要約できているか確認する。	
復習	表現集の語句の確認	パワーポイントを使用し、瞬時に発音させる。	
導入 展開 まとめ	Micro Debate ・ビデオクリップを見て本日のテーマを知る。 ・4人グループで Micro Debate を行う。 ・肯定側と否定側に分かれ、それぞれサポートする点を掲示用短冊に書く。 ・ Micro Debate で出た意見を参考に自分の意見をまとめる。 ・自分の意見を発表させる。	机間指導を行い、文法や語彙の間違いを正したり、支援が必要な生徒がいれば手助けをする。 掲示用短冊を黒板に貼り、自分の意見をまとめる際の参考にさせる。	メモを取りながら、相手の意見に関心を持って聞こうとしている。 (関心・意欲・態度) トピックに関する自分の意見を表現できる。 (表現の能力)
振り返り あいさつ	振り返り Greeting		

・マイクロディベートの様子



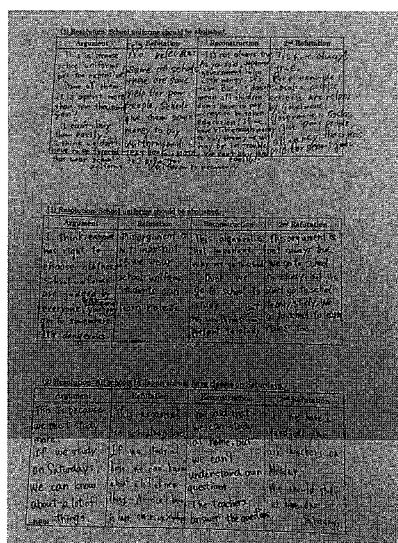
・ワークシート (constructive speech)



・生徒が考えた signpost



・ワークシート (cross-examination)



(6). 成果と課題

本年度は「つながり、かさなり、ひろがる授業」の2年次として、小中高10年間でなされるカリキュラム全体を見渡し、教科の本質となるコミュニケーション能力の育成を元に、より高次の深まりとひろがりのある授業展開を意識し、研究に取り組んだ。

中学校では3年間の最終課題に設定しているディベート活動において、適切に自分の意見を表現しようと理由や根拠を付け加え、論理的に物事を述べる方法を学んだ。また聞き手に関しても反論のためにメモをとるなどし、相手の考えを適切に理解しようとする姿勢が見られた。このような活動を通じて、意思疎通を図ろうとする態度、つまり相手にわかりやすく伝えようとする態度やより正確に情報を理解しようとする態度が身に着くことが期待できる。またこれまで培ってきた4技能を統合し、コミュニケーションを図ることは、中学校における最終課題として相応しく、高等学校への橋渡しとなる活動であった。

次年度は「つながり・かさなり・ひろがる授業」の最終年次であり、コミュニケーション能力を育成するための指導と評価の一体化に関して追求していきたい。そして小中高一貫した学習到達目標を確立させなければならない。